（４）　も　　も

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 縮葉病 *Taphrina deformans*	1.早期に罹病葉を摘み取って、土中に埋没処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.キノンドー水和剤４０、オキシンドー水和剤４０、オキシラン水和剤は発芽後に使用すると薬害を生じるので使用しない。 2.本病対象に越冬期に石灰硫黄合剤で越冬期防除を実施しているところでは、いぼ皮病の発生が少ない。 3.ムッシュボルドーＤＦは、収穫終了後の使用は薬害（落葉）を生じるおそれがあるので、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用する。	発芽前 (12月～３月中旬)	11 M1 M1 M1 M1 UN M3 M3 24･M1 24･M1 M1･M1 M4･M1 M7･M4	ストロビードライフロアブル ＩＣボルドー４１２ ムッシュボルドーＤＦ キノンドー水和剤４０ オキシンドー水和剤８０ 石灰硫黄合剤 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤 (混)キンセット水和剤８０ (混)オキシラン水和剤 (混)ダイパワー水和剤
2 せん孔細菌病 *Pseudomonas syringae* pv. *syringae* *Xanthomonas arboricola* pv. *pruni* *Brenneria nigrifluens*	1.過剰施肥や肥料不足は発病を助長するので、適正施肥に努め、有機物の施用により、土づくりを図る。 2.せん定の際､病枝を切り取る。 3.栽植に当たっては風当りの弱い場所を選ぶ。 4.防風ネットを設置する。 5.本病に対して大久保、白鳳、砂子早生等は弱い。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.Ｚボルドー、ボルドー液は発芽後に使用すると薬害を生じるので使用しない。 2.４～５月に重点防除をする。 3.コスカシバ、キクイムシなどのせん孔性害虫の防除を徹底し、樹勢低下を防ぐ。 4.ボルドー液の作り方は果樹参考２参照。 5.ストレプトマイシン剤（アグレプト液剤、アグレプト水和剤、ストマイ液剤２０、マイシン２０水和剤）とマイコシールドは、高温多湿時に散布すると薬害を生じることがある。 6.マスタピース水和剤は生菌のため、低温保存する。 7.クプロシールドは、開花後は葉に薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用する。 8.ボルドー液の作り方は果樹参考２参照。 9.園芸ボルドーは強アルカリ薬剤、マシン油乳剤との混用は避ける。	発芽前	25 25 25 25 M1 M1 M1 M1 24･M1 24･M1 25･1 25･41 M1･M1	アグレプト液剤 アグレプト水和剤 ストマイ液剤２０ マイシン２０水和剤 Ｚボルドー ＩＣボルドー４１２ ムッシュボルドーＤＦ ボルドー液４－１２式 (混)カスミンボルドー (混)カッパーシン水和剤 (混)アタッキン水和剤 (混)アグリマイシン-１００ (混)キンセット水和剤８０
		発芽前～開花期前	M1	クプロシールド
		４月下旬 ～７月中旬	41 U18 M9 -(生)	マイコシールド バリダシン液剤５ デランフロアブル (生)マスタピース水和剤
		６月下旬～ ９月中旬 (収穫後)	25 25 25 25 25･1	アグレプト液剤 アグレプト水和剤 ストマイ液剤２０ マイシン２０水和剤 (混)アタッキン水和剤
		９月下旬 ～２月中旬 (収穫後)	M1 M1 M1 M2・M1	コサイド３０００ ＩＣボルドー４１２ ボルドー液４－１２式 (混)園芸ボルドー
3 炭疽病 *Colletotrichum gloeosporioides* *C. nymphaeae*	1.排水不良の園で発病しやすいので、極力排水を良好にする。 2.病枝は切り取り、罹病果の摘果処理を徹底し、袋かけをする。 3.窒素肥料過多になると発病しやすいので、適正な施肥を行う。	落花直後～６月	3 3･11	オンリーワンフロアブル (混)ナティーボフロアブル
4 黒星病 *Cladosporium carpophilum*	1.せん定の際､病枝を切り取る。 2.ふところ枝などは特に注意して切る。 3.袋かけをする。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.５～６月に感染し、潜伏期間は35日程度である。 2.６月上旬までに、水和硫黄剤（イオウフロアブル、コロナフロアブル、サルファーゾル）を散布する。また、28℃以上の高温時には使用しない。 4.ダコニール1000は有袋栽培で除袋直後の散布は薬害のおそれがあるので避ける。 5.本病対象に水和硫黄剤、ストロビードライフロアブルで防除を実施しているところでは、褐さび病の発生が少ない。 6.パスポート顆粒水和剤は葉に薬害を生じるおそれがあるので、夏期高温時の散布はさける。有袋栽培のももに使用する場合、除袋直後の散布は果面に日焼け症状が出るおそれがあるので避ける。	開花前 (３月中下旬)	UN	石灰硫黄合剤
		４月下旬 ～７月中旬 (２～３回散布)	1 1 3 3 3 3 3 3 3 3 3 7 7 7 9 11	トップジンＭ水和剤 ベンレート水和剤 アンビルフロアブル トリフミン水和剤 マネージＤＦ スコア顆粒水和剤 オーシャイン水和剤 オーシャインフロアブル オンリーワンフロアブル インダーフロアブル ベランティーフロアブル フルーツセイバー カナメフロアブル パレード１５フロアブル フルピカフロアブル アミスター１０フロアブル

もも

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
		4月下旬 ～7月中旬 (2～3回散布)	11 11 52 52 M2 M2 M2 M3 M5 M5 M7 M7 M9 25･1 1･M5 3･7 3･11 11･7 M9･7 M7･17	ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 ミギワ20フロアブル アイーナ20フロアブル イオウフロアブル コロナフロアブル サルファーゾル チオノックフロアブル ダコニール1000 パスポート顆粒水和剤 ベルクートフロアブル ベルクート水和剤 デランフロアブル (混)アタッキン水和剤 (混)ダコレート水和剤 (混)アクサ―フロアブル (混)ナティーボフロアブル (混)ナリアWDG (混)セルカディスDフロアブル (混)ダイマジン
5 褐さび病 *Tranzschelia discolor*	1.春先に病枝を切り取る。 2.中間寄主よりも病枝での越冬が主体である。 3.イチリンソウ、ニリンソウ、スハマソウ（中間寄主）を除去する。	5月～9月 (発病初めから定期的に数回散布)	7	カナメフロアブル
6 うどんこ病 *Podosphaera tridactyla* *P.pannosa* *P.leucotricha*	1.密植園では通風を図るようにせん定間伐する。 2.落葉を処分し、中耕する。	3月下旬 ～7月中旬 (4～5回散布)	1 1 3 3 3 7 7 7 7 9 11 11 M7 3･7 3･11	ベンレート水和剤 トップジンM水和剤 トリフミン水和剤 オンリーワンフロアブル ベランティーフロアブル フルーツセイバー パレード15フロアブル カナメフロアブル ロンセラーフロアブル フルピカフロアブル ストロビードライフロアブル スクレアフロアブル ベルクート水和剤 (混)アクサーフロアブル (混)ナティーボフロアブル
7 灰星病 *Monilinia fructicola* *M.fructigena*	1.花腐れ、実腐れ（収穫期の被害果を含む）を除去し、埋没する。 2.密植、多肥、過繁茂を避ける。 3.園を清掃し、被害枝をせん除する。 4.サクラ、アンズ、スモモ、オウトウが付近にある場合は、これらの被害果等の処分もあわせて行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.袋かけ前の防除を徹底する。 2.本病対象にダコニール1000、ダコレート水和剤で防除を実施しているところでは、黒かび病の発生が少ない。 3.フロンサイドSCの注意事項 ・散布後7日以内の入園はしない。 ・ハウスでは使用しない。	開花初め 4月上旬～ 5月中旬 5月下旬～ 7月中旬 (収穫の約20日前から5～7日おきに3～4回散布)	1 1 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 7 7 7 7 9 11 11 11 11 29	トップジンM水和剤 ベンレート水和剤 ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 ラリー水和剤 アンビルフロアブル トリフミン水和剤 スコア顆粒水和剤 オーシャイン水和剤 オーシャインフロアブル オンリーワンフロアブル インダーフロアブル ベランティーフロアブル フルーツセイバー カナメフロアブル パレード15フロアブル ロンセラーフロアブル フルピカフロアブル アミスター10フロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 スクレアフロアブル フロンサイドSC

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

もも

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
		開花初め 4月上旬～ 5月中旬 5月下旬～ 7月中旬 (収穫の約20日前から5～7日おきに3～4回散布)	52	ミギワ20フロアブル
			52	アイーナ20フロアブル
			M5	ダコニール1000
			M7	ベルクートフロアブル
			M7	ベルクート水和剤
			1･M5	(混)ダコレート水和剤
			3･7	(混)アクサーフロアブル
			3･11	(混)ナティーボフロアブル
			11･7	(混)ナリアWDG
			M9･7	(混)セルカディスDフロアブル
			M7･17	(混)ダイマジン
8 ホモプシス腐敗病 *Phomopsis* sp.	1.枯枝を除去し、処分する。 2.密植、多肥、過繁茂を避ける。 3.被害果は放置しないで、土中深く埋没する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.フロンサイドSCの注意事項は灰星病の項を参照。	幼果期～ 収穫直前	1	トップジンM水和剤
			1	ベンレート水和剤
			2	ロブラール水和剤
			3	オンリーワンフロアブル
			11	アミスター10フロアブル
			11	ファンタジスタ顆粒水和剤
			11	スクレアフロアブル
			29	フロンサイドSC
			52	ミギワ20フロアブル
			M7	ベルクート水和剤
			M7	ベルクートフロアブル
			M9	デランフロアブル
			1･M5	(混)ダコレート水和剤
			3･7	(混)アクサーフロアブル
			11･7	(混)ナリアWDG
			M7･17	(混)ダイマジン
9 根頭がんしゅ病 *Rhizobium rhizogenes*	1.苗は無病地でつくる。 2.無病苗木を植える。 3.定植後、葉色や枝の伸長枝の伸長の悪いものは支根の付け根まで掘って、がんしゅ病の有無を調べ、定植2～3年目のものは改植を行う。 4.成木に発病を認めたときは、がんしゅをていねいにはぎ取り、あとで接ろうを塗っておく。			
10 胴枯病 *Leucostoma persoonii*	1.樹勢を衰弱させないよう肥培管理に注意する。 2.病枝は切り取る。 3.凍霜害及び主幹部の日焼け防止に努める。 4.若木は徒長しないように窒素質肥料を控える。 5.コスカシバ、キクイムシの防除に努める。 6.早春の第1次伝染を防止する。 7.強せん定を避ける。	発芽前 (3月中旬)	UN	石灰硫黄合剤
11 いぼ皮病 *Botryosphaeria berengeriana* f. sp. *perscicae*	1.苗木は無病園で育成する。 2.排水を良好にする。 3.過度の乾燥を避ける。 4.無理な樹形づくりを避ける。 5.忌地対策を十分に行う。 6.発病が甚だしく、老化した園では若木の感染を防ぐため、一挙に更新を図る。 7.日焼け防止用の白塗剤を発芽前に枝、幹の発病部を中心に散布または塗布する。			
12 紋羽病 (白紋羽病) *Rosellinia necatrix* (紫紋羽病) *Helicobasidium mompa*	1.カンキツの紋羽病に準ずる。発芽前(3月)、落葉後(11月)に処置する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.トップジンM水和剤、フジワン粒剤、フロンサイドSCは白紋羽病に登録がある。 2.フロンサイドSCは、休眠期に使用してもよいが、使用回数に注意すること。	植付前 (苗木の消毒)	1	トップジンM水和剤
		感染前～ 発病初期 (病樹の治療予防)	6	フジワン粒剤
			29	フロンサイドSC
13 切り口及び傷口のゆ合促進		せん定整枝時、病患部削り取り直後及び病枝切除後	1	トップジンMペースト
14 忌地	1.改植を行う場合、夏季に伐採し、モモの根を残さないように取り出す。 2.植付は旧株跡を避け、植穴に客土して高うねとする。 3.植付のとき、完熟堆肥、土壌改良剤などを施す。 4.植付前に土壌消毒を行う。(紋羽病の散布方法及び注意事項に準じる) 5.センチュウ対策として抵抗性台木を植え付ける。			

もも

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
15 アブラムシ類	**〈薬剤使用の特記事項〉** ●発芽前 1.ハーベストオイルは、モモアカアブラムシに登録がある。 2.本虫対象にハーベストオイルで防除しているところでは、カイガラムシ類の発生が少ない。 ●発生期 1.発生の多い場合は５月にも１回散布する。 2.スミロディー乳剤は、初期散布（５～６月）には薬害のでることがあるので注意する。	発芽前	UNM	ハーベストオイル
		発生期 （３月中旬 ～９月中旬）	1A	オリオン水和剤４０
			3A	アディオン水和剤
			3A	アディオンフロアブル
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	スカウト乳剤
			3A	ロディー水和剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	アーデント水和剤
			3A	バイスロイドＥＷ
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			14	パダンＳＧ水溶剤
			21A	ハチハチフロアブル
			23	モベントフロアブル
			29	ウララＤＦ
			3A･1B	（混）スミロディー乳剤
			3A･1B	（混）パーマチオン水和剤
16 カメムシ類	1.幼果期頃より加害されるので、早期に袋かけ等を行う。 2.常発園ではネット（４㎜目合以下）で園全体を覆い、侵入を防ぐ。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.果実への寄生が認められる場合は、直ちに薬剤散布を行う。 2.成虫は山林原野から夕方に飛来し、夜間加害するので、防除は夕方に一斉に行う。 3.周辺にスギ、ヒノキ等の多い園や、過去に被害の認められた園では特に注意する。	発生期 （４～８月）	1B	スミチオン水和剤４０
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	アーデント水和剤
			3A	アーデントフロアブル
			3A	ロディー乳剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			28・4A	（混）キックオフ顆粒水和剤
17 ウメシロカイガラムシ	1.冬期にワラ、ブラシなどでカイガラムシをすり落とす。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.定着直後の幼虫に散布する。	12月下旬 ～２月中旬	UNM	機械油乳剤９５
			UNM	トモノール
			UNM	スプレーオイル
			UNM	トモノールＳ
			UNM	アタックオイル
		発芽前 （３月中下旬）	UN	石灰硫黄合剤
		４月下旬 ～５月上旬	4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4C	トランスフォームフロアブル
		７月上旬 ～７月中旬	9B	コルト顆粒水和剤
			16	アプロード水和剤
		８月下旬 ～９月下旬	23	モベントフロアブル
			21A･16	(混)アプロードエースフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

もも

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
18 ミカンキイロアザミウマ	1.圃場内及び周辺の雑草処理を徹底する。 2.シルバーマルチ等をすると忌避効果がある。 3.青色粘着シートを吊しておくと発生時期の把握に有効である。	５月中旬～７月	3A	アーデント水和剤
			3A	アーデントフロアブル
			5	スピノエースフロアブル
			5	ディアナＷＤＧ
			13	コテツフロアブル
			21A	ハチハチフロアブル
			34	ファインセーブフロアブル
			34	アベンジャーフロアブル
19 ハダニ類	1.下草、周辺雑草を処分する。 2.株元にバンドを巻き、粘着剤で捕獲する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を抑えるため、同一成分（系統）農薬の使用回数を年１回とする。 2.コテツフロアブルはナミハダニとカンザワハダニに登録がある。 3.ダニオーテフロアブルは銅を含む製剤との混用及び近接散布で防除効果が低下するおそれがあるため、銅剤との混用はさける。本剤を散布した後に銅剤を使用する場合は 10 日以上散布間隔を空ける。銅剤を散布した後は本剤の使用をさける。	発生初期 （５月中旬 ～６月下旬 ７月上旬 ～８月下旬）	6	コロマイト乳剤
			10A	ニッソラン水和剤
			10B	バロックフロアブル
			12C	オマイト水和剤
			13	コテツフロアブル
			20B	カネマイトフロアブル
			21A	ダニトロンフロアブル
			21A	ピラニカＥＷ
			21A	サンマイト水和剤
			23	ダニゲッターフロアブル
			23	モベントフロアブル
			25A	ダニサラバフロアブル
			25B	ダニコングフロアブル
			33	ダニオーテフロアブル
			-（生）	スパイカルプラス
20 モモサビダニ	1.せん定枝は発芽前までに処分する。	６～７月	13	コテツフロアブル
			20B	カネマイトフロアブル
			21A	ハチハチフロアブル
21 モモハモグリガ	1.秋期に落葉を集めて処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.早期防除を徹底する。 2.スミチオン水和剤40は、生育初期（５～６月）に散布した場合、薬害が発生するおそれがある。 3.本虫対象にアグロスリン水和剤、スカウトフロアブル・乳剤で防除を実施しているところでは、クワゴマダラヒトリの発生が少ない。 4.エクシレルＳＥはアルカリ性の農薬や肥料との混用で有効成分が分解するおそれがあるので避ける。 5.コンフューザーの注意事項 ・枝に巻きつけ固定する。処理　位置は通常、目通り（1.5m）の高さに取り付けるが、樹高　が不均一の場合には高い位置(2.5～３m)にも取り付ける。 ・平坦地、広面積の使用で効果が高い。圃場の立地条件（傾斜）を考慮に入れて８割程度を圃場全体にほぼ均等に設置し、残りの２割程度を圃場の周辺部に処理すると効果的である。傾斜地では圃場の上側の方に、より多く設置するよう配分するのが望ましい。 ・急傾斜地、風の強い地域等、本剤の濃度を維持するのが困難な地域では設置を見合わせる。 ・Ⅲ－２５．フェロモン剤についての項参照。	発生期 （３月下旬 ～10月上旬）	1A	オリオン水和剤４０
			1B	スミチオン水和剤４０
			3A	アディオン水和剤
			3A	アディオンフロアブル
			3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	サイハロン水和剤
			3A	スカウトフロアブル
			3A	スカウト乳剤
			3A	ロディー水和剤
			3A	ロディー乳剤
			3A	テルスター水和剤
			3A	テルスターフロアブル
			3A	マブリック水和剤２０
			3A	アークリン水和剤
			3A	アーデント水和剤
			3A	バイスロイドＥＷ
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			5	スピノエースフロアブル
			5	ディアナＷＤＧ
			15	デミリン水和剤
			15	ノーモルト乳剤
			15	カスケード乳剤
			21A	ハチハチフロアブル
			28	フェニックス顆粒水和剤
			28	フェニックスフロアブル
			28	サムコルフロアブル１０
			28	ヨーバルフロアブル
			28	エクシレルＳＥ
			-(フェ)	コンフューザーＭＭ
			3A･1B	(混)スミロディー乳剤
			3A･1B	(混)パーマチオン水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

もも

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
22 ハマキムシ類	**〈薬剤使用の特記事項〉** 1.エクシレルSEの注意事項はモモハモグリガの項を参照。 2.コンフューザーMMの注意事項はモモハモグリガの項を参照。 3.コンフューザーMMはリンゴコカクモンハマキ、チャノコカクモンハマキに登録がある。	発生初期	3A 5 11A 11A 11A 11A 11A 11A 28 28 28 28 28 -（フェ）	アディオン乳剤 ディアナWDG トアロー水和剤CT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF クオークフロアブル ファイブスター顆粒水和剤 チューンアップ顆粒水和剤 フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル サムコルフロアブル10 ヨーバルフロアブル エクシレルSE コンフューザーMM
23 シンクイムシ類 モモノゴマダラノメイガ ナシヒメシンクイ モモシンクイガ	1.秋期に枝幹部にバンド巻きを行い、2月頃に取りはずして処分する。 2.芯折れは、中から幼虫が脱出しないうちにせん除する。 3.5月中旬までに袋かけを行う。 4.樹上及び地面に落下した被害果は処分する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.エクシレルSEの注意事項はモモハモグリガの項を参照。 2.スミチオン水和剤40は、生育初期（5～6月）に散布した場合、薬害が発生するおそれがある。 3.本虫対象に合成ピレスロイド剤（アグロスリン水和剤、スカウトフロアブル）で防除を実施しているところでは、クワゴマダラヒトリの発生が少ない。 4.本虫対象に合成ピレスロイド剤、モスピラン顆粒水溶剤で防除を行っているところでは、モモチョッキリゾウムシの発生が少ない。 5.コンフューザーMMの注意事項はモモハモグリガの項を参照。 6.コンフューザーMMはナシヒメシンクイ、モモシンクイガに登録がある。 7.コンフューザーMMはモモノゴマダラノメイガには効果がない。	3月下旬 ～7月中旬 (10日おきに 散布)	1A 1B 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 3A 4A 4A 4A 5 15 15 21A 28 28 28 28 28 28 -（フェ） 3A･1B 3A･1B	オリオン水和剤40 スミチオン水和剤40 アディオン水和剤 アディオンフロアブル アディオン乳剤 アグロスリン水和剤 サイハロン水和剤 スカウトフロアブル ロディー水和剤 ロディー乳剤 テルスターフロアブル マブリック水和剤20 アークリン水和剤 アーデント水和剤 バイスロイドEW モスピラン顆粒水溶剤 バリアード顆粒水和剤 ダントツ水溶剤 ディアナWDG デミリン水和剤 ノーモルト乳剤 ハチハチフロアブル フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル サムコルフロアブル10 テッパン液剤 ヨーバルフロアブル エクシレルSE コンフューザーMM (混)スミロディー乳剤 (混)パーマチオン水和剤
24 クワゴマダラヒトリ	1.8月下旬に果樹園周辺のクワ、アカメガシワ、カラスザンショウ（カラスノサンショウ）などの産卵植物を伐採する。 2.10月上旬に産卵植物上の巣網を採集し、処分する。	発生初期	1A 11A 11A 11A 28 28	オリオン水和剤40 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF ファイブスター顆粒水和剤 フェニックス顆粒水和剤 フェニックスフロアブル
25 ケムシ類		発生初期	1A	オリオン水和剤40

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

もも

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除		
		防除時期	RACコード	薬剤
26 果実吸蛾類 アケビコノハ アカエグリバ ヒメエグリバ等	1.ネット栽培を行って吸汁害を防ぐ。 2.夜間、園内を見回って成虫を捕殺する。 3.黄色蛍光灯を点灯する。 4.山林に接した園等で毎年被害の多いところは、７月中旬頃までに収穫の終わる早生種に切り替える。	発生初期	3A 3A	アグロスリン水和剤 ロディー乳剤
27 コスカシバ	1.秋期に虫糞の出ているところを小槌でたたき、若齢幼虫を圧殺する。 2.４月に小刀で加害部分を削って、幼虫を捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.ガットサイドＳは、樹幹部及び主枝に塗布する。粗皮や虫糞を除いてから塗布または散布すると効果的である。 2.スカシバコンＬの注意事項 ・枝に軽くひとひねりして固定する。目通りの高さ（約150㎝程度）になるべく圃場全体が均一になるように取り付ける。但し、樹高が不均一な場合にはなるべく高い位置に設置する。 ・急傾斜地、風の強い地域等、本剤の濃度を維持するのが困難な地域では設置を見合わせる。 ・Ⅲ－２５．フェロモン剤についての項参照。	発芽前 （３月中下旬）	1B 28 1B･1B	ガットサイドＳ フェニックスフロアブル （混）トラサイドＡ乳剤
		発生期 （6月上中旬、 ９月）	1B 3A 28 28 28 -(フェ)	ガットサイドＳ ロビンフッド フェニックスフロアブル サムコルフロアブル１０ ヨーバルフロアブル スカシバコンＬ
28 カミキリムシ類	1.５月末までに0.1㎜のポリフィルム、ビニールまたは新聞紙（３枚重ね以上）などを主幹部に巻く。 2.６～９月に成虫を捕殺する。 3.産卵期からふ化時に園内を見まわり、卵及び幼虫を刺殺する。	食入初期	3A	ロビンフッド
29 コガネムシ類	1.有機質肥料を多用すると、多発生することがある。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.エクシレルＳＥの注意事項はモモハモグリガの項を参照。	成虫発生初期	28 28	エクシレルＳＥ ヨーバルフロアブル